

早稲田大学交響楽団は、「ワセオケ」の愛称で親しまれる早稲田大学公認のオーケストラです。2013年に創立100周年を迎えた当楽団には現在約250名が所属しており、日々活動に励んでいます。年間4~5回の主催公演に加え、外部からの依頼による演奏活動も多数行っております。

共演者も多岐にわたり、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団やNHK交響楽団を中心に、世界一流のアーティストを共演者としてお迎えしております。昨年度行われた、ドイツ・オーストリアの12都市を巡る第15回海外公演「ヨーロッパツアー2018」では、太鼓奏者の林英哲氏・英哲風雲の会と共演し、各地で好評を博しました。



© Tama-Studio

## 指揮：曾我 大介 Conductor: SOGA, Daisuke



東京ニューシティ管弦楽団正指揮者。桐朋学園大学、ウィーン音楽大学、タンゲルウッド音楽セミナー、シエナ・キジアーナ音楽院で、B. ハイティンク、G. シノーポリ、I. ムーシン、U. ラーヨビッチ、小澤征爾、田中雅彦、I. ケプテア、森正の諸氏に学ぶ。

1989年ルーマニア国立音楽院在学中にルーマニアでデビュー以来、ジョルジュ・エネスコ・フィル、ブラショフ・フィルなどルーマニア各地のオーケストラに定期的に客演。1993年ブザンソン、1998年コンドラシンの両コンクールを始め、ヨーロッパを代表する指揮者コンクールで上位入賞。以降日本はもとより、ヨーロッパ、南米を中心に世界各地のオーケストラに客演を重ねている。2016年春にはブカレスト・ジョルジュ・エネスコフィルへの再度の客演が行われた。これ迄ルーマニア国立放送交響楽団首席客演指揮者、大阪シンフォニカー交響楽団音楽監督、東京ニュー

シティ管弦楽団首席指揮者を歴任。日本で最も若い音楽監督として活躍した大阪在任中は「関西音楽界に新風を吹き込んだ」と高評価を得、同団初の海外公演を成功に導いた。ブカレスト・エネスコ音楽祭、ブラジル・ロンドリーナ音楽祭を始めとする各地音楽祭出演や、講習会の講師、コンクールの審査員、また近年は作曲家としても活躍。その作品は日本始め、イタリア、ルーマニア、アメリカ、オーストリア、ブラジルなどでも演奏されている。現地での長年の文化活動に対する功労者として、ルーマニア・ブラショフ市、ブラジル・ロンドリーナ市から名誉市民の称号が贈られている。

2016年には技術評論社より、書き下ろしの新著、名曲60曲を網羅したガイド「聞きたい曲が見つかる！クラシック入門」が発売された。デルタ・クラシックスより、東京ニューシティ管弦楽団とのCDがリリース中。

## 演奏曲目 (一部)

### ◆ 歌劇「椿姫」より抜粋

イタリア・オペラの大家、ジュゼッペ・ヴェルディの代表作です。舞台は19世紀のパリの社交界、美しいヴィオレッタは奔放に生きていましたが、真面目な青年アルフレッドに出会い、真実の愛を知ります。彼の幸せのため、事情を明かさぬまま身を引くヴィオレッタに対しアルフレッドは激怒します。ようやく誤解が溶けアルフレッドが全てを知ったとき、彼女は病魔に侵されていました。涙に暮れますが時すでに遅く、ヴィオレッタは愛する人の腕で、息を引き取ります。

独唱：高橋 維 (ソプラノ)・芹澤 佳通 (テノール)・吉川 健一 (バリトン)

### ◆ ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品 35

チャイコフスキーは1878年にこの曲を作曲しました。現在ではベートーヴェン、メンデルスゾーン、ブラームスらのヴァイオリン協奏曲、通称「3大コンチェルト」と合わせて「4大コンチェルト」と呼ばれることもあり、広く愛好されています。チャイコフスキーの哀愁に満ちた美しい旋律・躍動感・演奏技法が十分に発揮されている作品です。演奏時間は約35分、3楽章で構成されています。

独奏：石井 千星 (当楽団ヴァイオリン奏者)

### ◆ 「トリッチ・トラッチ・ポルカ」作品 214

「トリッチ・トラッチ・ポルカ」はヨハン・シュトラウスⅡ世によって1858年に作曲、初演されました。作曲のきっかけは当時ウィーンにあった「トリッチ・トラッチ」というゴシップ誌に、彼とロシア貴族の令嬢との恋の噂が流れたことでした。彼はそれに対抗して「トリッチ・トラッチ」を面白がるような題名と内容をもったこのポルカを作曲しました。快速で小気味よい曲想と多彩な打楽器の使用が特徴的で、ウィーンのニューイヤーコンサートでもしばしば演奏されます。

### ◆ ワルツ「女学生」作品 191

ワルトイフェルは「フランスのワルツ王」とも呼ばれ、「スケートをする人々」などの流麗な旋律をもったワルツをいくつも世に送り出しました。このワルツは日本では「女学生」と呼ばれていますが、実は原題はスペイン語で「学生の楽団」という意味です。当時パリで人気があった同名の二重唱曲やスペインの民族風の旋律が多く取り入れられており、明るく活気に満ちたリズムがタンバリンやカスターネットを交えながら演奏されます。